

自治ひろこ

1346号

当面の日程

- 26日 朝鮮学校への差別は許さない!「高校無償化」からの朝鮮学校外しを許さない第2回緊急兵庫県集会(神戸市勤労会館)
- 27日 2010人勸期7.27第2次中央行動(日比谷野音)
- 29日 国立公園成ヶ島の環境に学ぶツアー(洲本市)



全日本自治団体労働組合 兵庫県本部
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-22 TEL078-341-1080 FAX078-341-1090
E-mail:jhyogo@jichiro-hyogo.jp

2010. 7. 15

月2回(1日、15日)発行 定価10円
購読料は組合費に含まれる。
発行人/森 守・編集人/森 哲二



えさきたかしさん 初当選

国会での活躍に期待

兵庫選挙区 水岡さん2期目の当選

政権交代の意義と民主党政権の評価が問われた参議院選挙が、7月11日実施された。開票の結果、自治労組織内比例代表候補の「えさきたかし」さんは、13万票余りを獲得し初当選を果たした。また、兵庫選挙区では、民主党「みずおか俊一」さんを推薦し、連合の仲間とともに選挙戦をたたき、厳しい情勢をはねのけ2期目の当選を勝ち取ることができた。しかし、今回の参議院選挙全体では、民主党は比例区での得票1位は確保したものの、改選議席数54を10議席も下回り、参議院での過半数を割り込むという、大変厳しい結果となった。

自公政権下、推し進められた市場原理主義に基づく政権運営は、働く者に痛みを押し付け、日本社会をほころびだらけにしてきた。昨年実現した政権交代は、人間らしく働く権利をむしろばむ政治から、働く者を大切に政治への転換。自治労の主要課題である地域主権改革、労働基本権の回復など公務員制度改革を前進させる契機となった。そして、今回の参議院選挙は、その政権を安定させ、取り組み課題を推進するための基盤づくりでもあった。しかし、「政治と金」や「普天間基地問題」、突然の

当選が決まり万歳三唱する「えさきたかし」さん(上写真中央)選挙区での当選を喜ぶ「みずおか俊一」さん(下写真左)

県本部推せん候補者の得票結果

えさきたかし	13万3248票
みずおか俊一	51万5541票



10人勸第1次中央行動

50歳後半狙い撃ち

「給与水準が民間上回る」

10人勸期第1次中央行動が7月13日、社会文化会館で行われた。あわせて実施された人事院職員団体審議官交渉では、「差がマイナ

ナスとなった場合、50歳台後半を狙い撃ちにした給与引き下げを実施する」との提案が示され、公務員連絡会側は到底受け入れられないと回答した。

午後1時30分に開会した中央集会で吉澤伸夫事務局長は、人勸期をめぐる情勢について①月例給はマイナス較差が想定される厳しい状況にあること②一時金についても昨年度の民間実績が△10%△15%となり同様に厳しい状況にあることを強調。「厳しい情勢にあるが、それをエネルギーにしよう」と、粘り強い取り組みを求めた。

人勸学習会に参加を

青年女性が7月28日に開催

青年部・女性部は7月28日の拡大部長会議とあわせ、10人勸学習会を行う。27日の人勸期第2次中央行動を踏まえ、ホットな情勢を学習する。先の交渉で人事院は、月例給、一時金ともに「極めて厳しい状況にある」との認識を示している。今年の勧告も厳しい内容が予想されているが、生活実態を点検し、人勸期から確定期に向けた賃金闘争の強化が課題である。積極的な参加を。

とき 7月28日(水)
午後2時～4時
(最初の1時間は拡大部長会議の議事を行います)
ところ ひょうご共済会館

決起集会に350人

高嶋参議員が情勢報告

県本部は7月7日に神戸市・ピッパホールで「人勸期闘争勝利決起集会」を開き350人が結集した。参議院選挙開戦がヤマ場を迎えるなか、高嶋良充参議員から選挙情勢の報告を受けるとともに、自治労組織内候補「えさきたかし」さんもかけつけ、「公共サービスの再生に向け全力をあげる。最後まで支援を」と力強い決意を述べた。



選挙情勢を話す高嶋さん

してゆくべきものだ。だからこそ、今回、高嶋良充さんの議席を受け継いだ「えさきたかし」さんの国会での活躍を期待して止まない。

較差になることもあり得ると説明。一時金は民間の昨冬が大きく落ち込んでいることから「極めて厳しい」と認識を示した。

また「50歳後半半層については、公務の給与水準が民間を大きく上回り、その差が拡大する傾向が見られることから、早急に是正する必要がある」とし、マイナス較差が出た場合は50歳台後半半層の給与に一定率を乗じ引き下げることを考えていることを明らかにした。

回答に対し連絡会は大きく不満を示し、「27日の局長交渉では、勧告の全体像を示してもらいたい」と強く要請した。

しこう

小惑星探知機「はやぶさ」が、宇宙のかなたイトカワという小惑星まで往復60億キロを、傷つきながらも数々の危機を乗り越え7年かけて今年6月13日、地球に帰ってきた。最期は自分の身を引き換えにカプセルを守り、光線を残しつつ散り去った。この「はやぶさ」の生き方?に何か熱いものを感じた人は多かったことだろう。当初の目的はイオンエンジンの能力実証と地球からの指示なしで動く自動制御技術の検証であったが、研究者たちのモチベーションを高めるために、小惑星の砂を持ち帰ることも加えたという。ついでの仕事の規模が何と大きい。カプセルの中からは0.01ミリの微粒子が見つかったとか、新たな発見があるのではとワクワクする。ワクワクさせてくれたのはワールドサッカーも同じだ。結果は残念だったが日本選手の奮闘に、にわかファンも熱くなった。人間諦めしてしまえば、きつとつまらない人生になるということを示してもらった気がした。(神無月)